

## 第8章 中央線（中津川＝多治見）、東海道線（名古屋＝岡崎）

### 第1節 1日目：3月3日（土）：中津川～釜戸

中津川(12:43)～美乃坂本(14:40)～恵那(16:20)～武並(17:43)～釜戸(18:56)

2007年3月3日（土）から4日（日）にかけて、中津川から釜戸までの中央線と名古屋から大高までの東海道線に挑戦。無論青春18切符の活用と宿泊つきで実施。両日とも天気には恵まれた。宿泊つきのウォーキングは水戸、浜松、松本に続き4回目である。今回のウォーキングは下見もかね、塩尻経由で中津川に移動する。



塩尻駅

中津川駅

3月3日（土）、南林間5時30分発で町田経由にて八王子駅へ。当初は八王子0時40分のムーンライト信州81号で塩尻に行こうと予約席も購入（510円）した。しかし、時刻表で調べたところ、塩尻で3時間程度待ち合わせを余儀なくされた。それで、急遽八王子6時35分の松本行きに変更した。八王子から松本まで昨年踏破したので、窓からの風景は懐かしく、歩いた足跡が窓から思い出された。途中、下諏訪から登山するというパーティーと同席となり、これまでのウォーキングを語る機会を得る。凄いと褒めていただく。そういうこともあり、退屈することなく塩尻駅に9時57分到着することができた。

塩尻からは中津川行き10時38分までダイヤなし。ここで少し早い待ち合わせ時間を活用しキオスクで弁当を買って昼食にする。中津川からの電車は身延線と同じタイプの2両編成のワンマンカーであった。無論単線であった。身延線のアナウンスは「・・・してください」がとても印象的で親しみを感じたが、中央線では標準的アナウンスであった。大半の駅が無人駅であった。南アルプスが近いせいもあり、沿線にはところどころ残雪があった。蕨原駅で特急通過待ち。また、野尻駅で対抗電車と離合があった。木曾福島駅は特急停車駅なので観察したかったが、居眠りして見逃す。記憶する限り坂下駅は、無人駅ではなかった。中津川駅手間で風光明媚な落合ダムが目に入る。中津川には12時43分到着。



中津川 歴史の道 中山道

中津川駅に到着する頃、運良く曇り空から晴となる。駅前をカメラに収め、美乃坂本駅を目指し歩き始める。12時58分、中津川（桃山大橋）が前方を遮り、迂回を余儀なくされる。鉄道をつたい歩きするが、行き止まりとなり何度も引き返しを余儀なくされる。結局、13時21分国道257号線に出て美乃坂本駅を目指す。ここで名古屋72Km、下呂55Kmの道路標識を見つける。中津川市駒場（青木）で鉄道を渡ろうとするがとりやめ、国道を直進する。13時35分、中津川市千旦林に到達。中津川ICまで40mの看板があった。また、中津川車庫があった。14時12分、式内坂本神社八幡宮に到達。この近くに千旦林村の高札場跡（歴史の道中山道）があった。やっと、本日初めての美乃坂本駅に14時40分到着。



美乃坂本駅 菅原神社

この駅から鉄道を右手にして山道を歩く。太い通りに出て、左右どちらに歩くか迷う。通りがかりの人に、恵那にはどちらに進むか聞く。右に行った方がいいとのことで、鉄道を越え鉄道の右側となる。鉄道を渡るや否や直径100m位の池があった。前方には丘があり、この丘の向こうに恵那駅がある感じであった。どうやら遠回りのコースを選択したようだ。山道を上り、この坂を下った先に恵那駅があった。途中、県立恵那農業高校には15時42分到着。本来県道410号を進むべきであったが、誤って401号に進んでしまった。15時55分、中央高速を越えた先に菅原神社（長石塔関戸一里塚＝大井宿300m）があった。明智鉄道の踏切を越える。この近郊に曹洞宗長園寺があった。太い道路を500m位歩き、右折する。中山道広重美術館の前を16時15分通過。その先に恵那駅（16時20分）があった。恵那駅前には賑やかだった。この駅に来るや否や上り特急電車が到着する。



恵那駅

武並駅

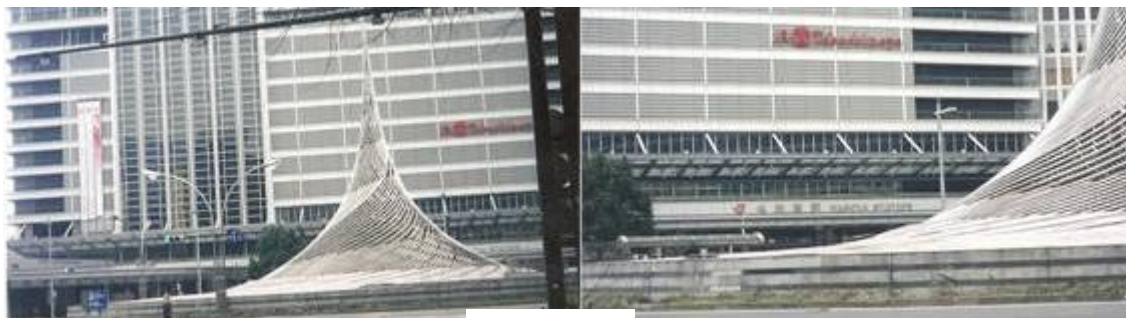
恵那駅から少し行った先に中山道水戸屋（喫茶店）前を 16 時 37 分通過する。暫く左には国道 19 号線、右には JR 線、更にその上を中央高速道路が続く。16 時 58 分、まきがえ公園に到達したところで JR 線がトンネルとなる。陸橋を渡り歩く進路を確保する。17 時 10 分、いつの間にか JR 線が左手側になる。武並駅（たけなみ）には 17 時 43 分到着。駅前には食事処があり、ここでアップしようと考えた。しかし、適当な電車がいないので 5.4Km 先の釜戸駅を目指すことにする。一山越える挑戦となる。辺りは薄暗くなりかけていた。18 時 8 分、瑞浪市となる。道路沿線には民家がなく照明が少ないこともあり、歩く道路は完全な暗闇状態となる。灯を照らした電車を数便左手側下 300m 位先に見る。人気全くないため、時計による到着時間推計と左側下の鉄道に沿った民家の灯を配慮し、釜戸駅を通り過ぎないように注意する。中日新聞事務所を見つけ、駅が近いのを察知する。暫く行くと道路の向こう側の床屋前で人影があり。釜戸駅を聞こうとするが私の声に反応することなく別の店に入って行く。それから少し行った先で、やっと若者に会い、路を尋ねる機会を得、安堵する。この通りを直進し踏切を渡った先を右に少し行った先に釜戸駅があるとのことだった。18 時 56 分、やっと無人駅の釜戸駅に到着。この駅の近郊には釜戸温泉があった。運良く少しの待ち合わせ時間で 19 時 15 分発の快速名古屋行きに接続していた。



釜戸駅

東横イン桜通口新館

19時15分、1番ホームに青色で快速が印象的な特急車両を使用した電車が到着。20時10分過ぎに名古屋駅に到着。名古屋で下車するのは3度目である。しかし、名古屋駅から出るのは生れて初めてである。高島屋のある桜通口に本日宿泊する東横イン新館があった。東横インの手前のカレー壺番屋に入り夕食をとる。東横イン(315号室)には21時に入る。本日の営業距離は22.4Km、万歩計は53,090歩だった。



名古屋駅

## 第2節 2日目：3月4日（日）：名古屋～金山～大高

名古屋(7:58)～金山(10:37)

二日目である2007年3月4日（日）は朝食を東横インで7時過ぎに済ませ、ホテルを8時前に出る。本日のコースは昨日の続きである釜戸駅からではなく、今後の展開も考慮し名古屋から豊橋に向かうコースとした。本日も昨日に引き続き、3月の初旬と思えない陽気であった。従って、アンダーのセーターを着ずに臨んだ。しかも、途中から20度を超え上着のコートも不要になるほど暑くなった。6月の初旬位の気温であったろう。



烏森駅

尾頭橋駅

ホテルを出て名古屋駅には7時58分到着。駅前の高島屋のデパートの建物は印象的であった。8時10分、日本生命笹島ビル前を通過。この近郊で進行を誤り桑名方面に向かうこととなる。8時38分、中川区九重町を通過。行けども行けども名古屋から2.4Km先の尾頭橋駅に到着できず。それで、道に迷ったのではないかと思い、恐る恐る尾頭橋駅の方向を聞く。9時8分、近鉄の烏森駅まで迷って来ていた。最初に尋ねた人はJR八田駅の道はわか

るが、尾頭橋駅は見当がつかないとのことであった。それで、複数の人に聞くがタイムリーな回答が得られず。最後に犬を散歩させている女性に聞いてやっと修正への方向がわかる。朝来た路を引き返す。9時50分、やっとりカバリーすべき原点に到達する。尾頭橋駅には10時17分到着しほっとした気分になる。2.4Kmのウォーキングに約2時間要す。名古屋駅にはJR東海道線の他にJR中央線、JR関西本線、近鉄名古屋線、名鉄常滑線、名鉄本線が複雑に続いており、名古屋に不慣れな私にとっては、ウォーキングの醍醐味の宝庫であった。これまでのウォーキングの中でリカバリーに最長の時間を要す。



この駅から少し行った先で何百人もの一攫千金を夢見た競馬ファンと出くわす。私が数分前に通過したところに日本中央競馬会ウインズ名古屋の馬券売り場があったからである。この馬券売り場は堀川に沿ってあった。JR線より右に300m位迂回を余儀なくされた。尾頭橋を渡って少し直進した先に金山駅(10時37分)があった。この駅はJR中央線のほかに名鉄豊田線が合流しており、賑やかな駅前であった。この駅は馬券を購入し終えた競馬ファンが案内してくれた。

<以下ご参考までに東海道本線日記記載>

大乘教総本山前を10時54分通過。JR線に沿って名古屋最高層161m47F建てのザライオンズミッドキャピタルタワー建設現場があった。工事は始まったばかりであった。11時8分、熱田駅に到着。駅より木々の森が見えた。通行人に聞いて織田信長が桶狭間の合戦のとき神頼みした熱田神宮とわかる。それで、歴史的な神宮への踏破と6月に生れて来る初孫の安産の祈願もかね立ち寄ることにする。夏のような日差しであったため熱田神宮の木陰に沿って正面で入口に向かう。名鉄常滑線の神宮駅があった。



熱田駅 熱田神宮

JR 線の熱田駅に比べ駅前には賑やかだった。アーケードの商店街が熱田神宮に沿って続いていた。正面玄関に入ると駐車場があり係員が誘導していた。熱田神宮の敷地は広大で木々の日陰が心地よい風を提供してくれた。沢山の観光客がいた。本堂をお参りした後、警備員に記念写真を撮ってもらった。熱田神宮を出ると 12 時前であったので、少し早いですが駅前の大丸食堂で名古屋名物の冷やしきしめん大盛りを注文する。熱くなった体を冷やしてくれた。



熱田神宮

20 分位休息し笠寺駅を目指す。11 時 58 分、名古屋工学院専門学校前を通過する。この近郊で川と歩行者・自転車の通行禁止のゾーンにぶつかる。10m 位の川幅の対岸に沿って道路があったが、その道路になかなか出られず、右往左往する。暫く悪戦苦闘した後やっと対処できる路を見つける。迂回に 300m 位余儀なくされる。通行禁止の幹線道路にある横断歩道を横切り路地を少し行った先に熱田橋 (12 時 17 分) があった。この橋を渡った先の道路が先程の対岸に見えた道路であった。この道路に沿って 200m 位歩くが、路の状況を見て引き返す。この近郊は川、JR 線、常滑線、道路が絡み合っ地地形を複雑にしていた。やっと JR 線に沿う路を見つける。途中、香川県に縁のある紫雲がつく名のセレモニーのマイクロバスに出くわす。南区豊三丁目だった。12 時 56 分、忠治橋を通過したところで新幹線の線路が現れる。鉄道に沿って歩くが、企業の事務所があり何度も袋小路にぶつかり、ジグザグを余儀なくされる。やっと笠寺駅には 13 時 14 分到着。



笠寺駅 大高駅

本日のコースには川が幾つもあり、その対処に時間をとられる。川幅 5m 位の同金橋を 13 時 30 分通過。13 時 54 分、南区元鳴尾町の先に川幅 50m 位が立ち塞がる。遠くに橋が見え、土手に沿って左に 800m 位（10 分程度）歩く。迂回した先に沿って国道 1 号線（14 時 7 分）が続いていた。名鉄本線もあった。国道を少し歩いた先で再度川に並行した大府（元巨人軍の槇原投手が大府高校出身）に続く道路を歩く。14 時 20 分、東海道新幹線と東海道在来線にぶつかり、線路に沿って歩く。この近郊で満開の菜の花畑と対面する。私の幼少の頃は 4 月から 5 月にかけての風物詩であったような気がするが、暖冬の影響で想像に反する時期の対面は驚いた。桶狭間合戦で登場する大高という地名をもつ大高駅には 14 時 26 分到達。到達するや否や車の警笛が 20 秒位鳴り響く。

14 時 29 分の豊橋行きに乗り、刈谷駅で 14 時 46 分発の快速豊橋行きに乗り換える。昨日の中央線と同様、特急車両であった。普通電車に比べ満席の状態であった。窓から地形を観察する。矢作川（やはぎ）が岡崎の手前にあった。それ以外には豊橋まで大きな障害物はない感じであった。豊橋駅で 15 時 34 分発の浜松行き（ボックス型電車）に再度乗り換える。二川と新所原の間にある山や新居町手前の新幹線の下を通る道路、更には風光明媚な弁天駅近郊等が懐かしく思えた。浜松駅でも 16 時 17 分発の熱海行きに乗り換える。電車はボックス型ではなく、長い座席が続く通勤型の車両であった。豊橋駅で隣にいた客（フジテレビの大塚アナのような人：吉原駅まで一緒）が対面に座る。隣には昨年他界した親父に感じが似た人（新居町から掛川まで）が左隣に座り込む。右隣にはお袋のような人が途中で乗車してくる。色んな乗客に接するのも旅の楽しみでもある。静岡駅辺りで日没し、由比駅辺りですっかり暗くなる。藤沢で小田急線に乗り換え自宅には 20 時 50 分到着。本日の営業キロは 12.4Km、万歩計は 36,486 歩だった。充実した二日間であった。

### 第3節 3月31日（土）：釜戸～多治見

釜戸(11:54)～瑞浪(13:45)～土岐市(15:38)～多治見(17:50)

青春18切符シリーズの第2弾は、2007年3月31日（土）～4月1日（日）にかけ、1ヶ月前の続きに挑戦する。折りしも20年前は国鉄からJRに民営化があったし、私が入社した昭和48年と同一カレンダーであった。また、花見にも最高な時期に恵まれた。本日は塩尻経由ではなく、東海道線を活用して釜戸まで移動する。予報では雨・曇りマークであったが、運良く曇りで二日ともウォーキングには絶好の日和となった。

31日は、4時前に起床。南林間駅を5時21分発の電車で藤沢駅へ。そこから以下のように乗り継いで、中央線の釜戸駅まで移動する。熱海から浜松まで除き電車はボックス席であった。待ち時間や乗り継ぎ時間を含め、南林間から釜戸まで6時間半程度要す。しかし、各駅でのんびり景色を見ながら釜戸までの移動は十分に旅行気分を満喫でき、とてもよかった。乗り継ぎ時間を利用して、金山で昼弁当を購入。

藤沢（5時49分）→小田原（6時21分）

小田原（6時22分）→熱海（6時45分）

熱海（6時49分）→浜松（9時18分）

浜松（9時30分）→豊橋（10時3分）

豊橋（10時7分）→金山（10時55分）

金山（11時7分）→釜戸（11時54分）

藤沢から金山までは、豊橋から大高までを除き踏破したこともあり、苦労した場面や懐かしい風景が窓から見えた。あらためて自分の凄さを感じた。金山から釜戸までは夜だったので、単調なコースと思ったが、改めて電車の窓からコースを見て、予想以上に難しいようなコースに気づく。定光寺から多治見にかけ、山間で難しい感じであった。



昼の釜戸駅



釜戸には 11 時 54 分到着。駅では清掃員がトイレの掃除をしていた。それから前回駅員はいなかったが、本日はいた。心持ではあるが、薄日がさしてきた。釜戸駅舎の写真を再度撮り、瑞浪（みづなみ）駅を目指す。駅前にはさわやかウォーキングコースがあった。このコースに従い歩く。12 時 7 分、JR 線の下を潜り左側に出る。12 時 11 分、多治見まで 21Km、反対側の方向には恵那まで 13Km と記載した看板があった。この地点で県道 65 号位先に国道 19 号線があり並走していた。65 号線の JR 線に近かったが安全をきして国道を歩くことにする。12 時 58 分 JR 線が道路の下となり鉄道が右側になる。13 時 1 分、難し



多治見への路

い漢字の神籠（こも）大橋を通過。平成通りを通り瑞浪駅には 13 時 45 分到着。駅に沿って土岐川が流れていた。また、6 分咲きの桜並木がある土岐川改修碑前を 14 時 10 分通過。再度 JR 線を下にし、鉄道の右側（14 時 35 分）になる。14 時 39 分、瑞浪市から土岐市に入る。いつの間にか複線になっていた。15 時 32 分、第 4 明治街道踏切を越える。



15 時 38 分、バーベルの像が印象的な土岐市駅に到着。商店街が線路と直角にあった。16 時 5 分、前方上に土岐大橋があり、どちらの方向進むか迷う。通行人はいなかったため、信号待ちのドライバーに尋ねるがはっきりとした回答がなかった。直進しても多治見に行けるが、相当遠回りの感じであった。それで、念のために車に乗ろうとした年輩の方に聞いて、土岐大橋に上がり、直進する方法を教えてもらう。50m 行った先に国道 19 号線にでる道があった。急な坂であった。国道は山間を潜って繋がっていた。夜であれば道に迷いそうなエリアであった。16 時 30 分、車道と歩道の間にあるユニークなウォーキングコースを歩く。少し盛り上がった青いタイル張りの歩道があった。道から 20m 上がったところに、土岐市ふるさと創生シンボルモニュメント（15m）があった。私の自宅と

同じ 1992 年 10 月施工であった。峠に中華そば屋（16 時 41 分）があった。



土岐市駅



創生シンボルモニュメント

16 時 47 分、土岐市から多治見市に入る。峠の下には多治見市（熊谷と共に本年 8 月記録的な猛暑 40.9℃観測）が広がっていた。迷いそうな道路の分岐点を 3～4 箇所乗り越える。17 時 23 分、記念橋南を通過。17 時 30 分、多治見市橋南から土岐川を渡り、多治見商店街の入口である「ながせ」に入る。辺りは少し薄暗くなる。商店街に入るや多治見駅をしるした標識があった。鯉のぼりの童謡が商店街から聞こえてくる。職業柄シャッターを閉めている店もあった。多治見駅には 17 時 50 分到着。18 時 10 分発のナイスホリデー（快速）で名古屋駅を目指す。6 両編成で先頭の車両のみ指定席であった。19 時頃名古屋駅ビルの「キッチンなごやとんかつ・酒処」で名古屋名物の味噌カツ定食を注文する。ビールつきで 1,280 円で味はなかなかのものであった。東横イン前の本屋に入り立ち読みをする。19 時 58 分、東横イン（320 号室）に入る。本日の営業距離は 21.3Km、万歩計で 46,806 歩だった。



ながせ商店街



多治見駅

#### 第4節 4 月 1 日：東海道本線（大高～岡崎）

東海道本線記載のため割愛